

ホットな
福祉情報誌

はあとふる ふくしま

2023
10月
No.321



特集

子どもが子どもらしくいられる社会へ
ヤングケアラーの現状と課題

シリーズ [未来へつなごう“ふくしま”から]

得意を生かして自分らしく
環境に、人に、やさしいまちのカフェで働く
RIBBON☛COFFEEを中心とした就労継続支援B型事業所

2023年度シリーズ ふくしまの未来

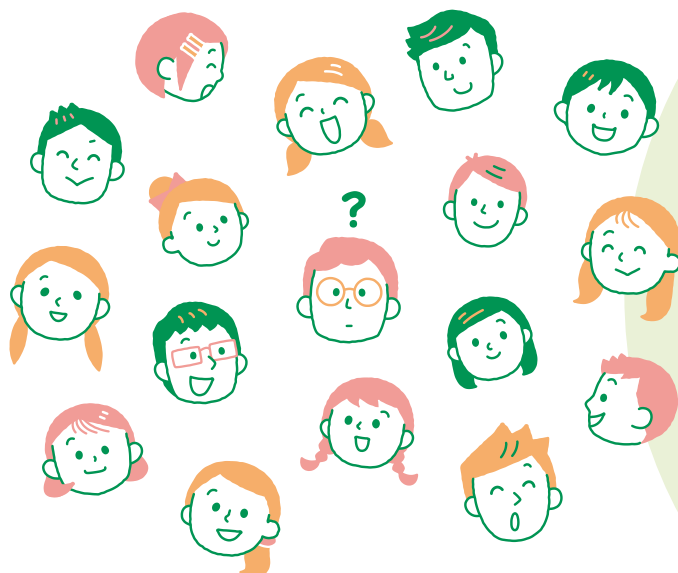
みてみて、かき氷を食べたらね…!
ぼくだけの色、きみだけの色。
みんな特別で、きれいだね。
(相馬市・みなと保育園)



子どもが子どもらしく いられる社会へ

ヤングケアラーの現状と課題

国では今年4月に「こども家庭庁」が発足し、「こどもまんなか」の社会を目指す取り組みが始まりました。それに伴い、こども施策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくため「こども基本法」も施行されました。こうした社会の動きの中で、現在注目されている子どもを取り巻く問題の一つにヤングケアラーがあります。今回はこのヤングケアラーについて考えていきます。



中学2年生の約17人に1人がヤングケアラー。
本人が自覚していないことが多く、
周囲から気付かれにくいという問題があります。

福島県では令和4年9～11月に
県内の小中高生を対象に生活実態を調査しました。

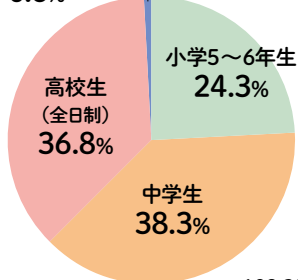
※福島県子どもの生活実態に関するアンケート調査より引用

県内で世話をしている家族が「いる」と
回答した小中高生は**5.9%**

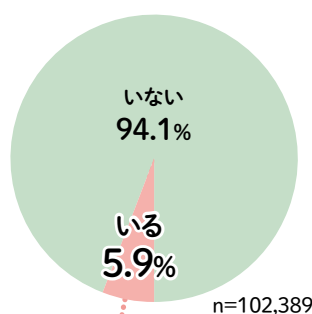
回答者の割合

高校生(定時制・通信制)

0.6%

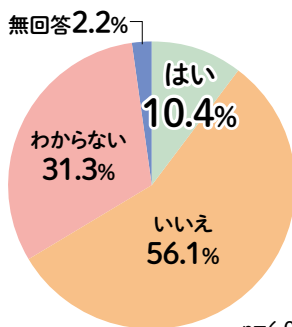


世話をしている家族が
「いる」と回答した人の割合

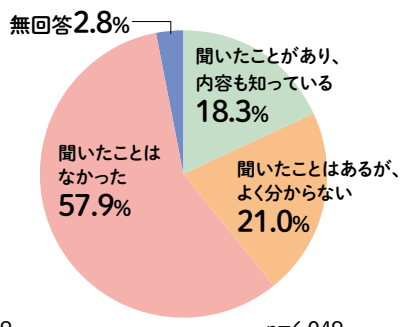


「いる」と答えた人の中で、自分がヤングケアラーと
自覚している小中高生は**10.4%**

ヤングケアラーの
自覚がある



ヤングケアラーの認知度



ヤングケアラーとは

ヤングケアラーとは、家事や家族の世話など、本来大人が担うと想定されることを日常的に行っている子どものことを言います。子どもがある程度の家事や大人の手伝いを行うことは問題ではありませんが、子どもができる範囲を超えて、心身に大きな負担がかかることが問題とされています。また、勉強に励む時間、部活に打ち込む時間、友人との他愛ない時間など、子どもたちが本来享受できたはずの時間が本人の意に反して奪われてしまうことが問題だということを私たち大人は認識する必要があります。

家族に代わり、
幼いきょうだいの
世話をしている



がん・難病・精神疾患など
慢性的な病気の
家族の看病を
している



日本語が第一言語でない家族や
障がいのある家族のために
通訳的な役割をしている



障がいや
病気のある
きょうだいの
世話や見守り
をしている



家計を支えるために労働をして、
障がいや病気のある
家族を助けている



■ ヤングケアラーが注目されるようになった背景

基本的な人権によってすべての人にさまざまな権利が認められていますが、子どもには、『子どもが子どもらしくいられる』ための権利があることはご存知でしょうか。

平成元年には国連で「子どもの権利条約」が採択され、左図のような4つの権利が国際的に認められました。日本は平成6年、これに同意し、その取り組みは各自自治体委ねられていますが、十分な啓発までには至っていません。昨今、若者の自殺や虐待に関する相談件数が増

加したことで子どもの権利が注目されるようになり、令和5年4月にはこどもが幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して「こども基本法」も施行されました。

こうした社会の動きによって、ヤングケアラーの問題も取り上げられるようになってきましたが、教育現場や関係機関等でも、ヤングケアラーや子どもの権利についての理解はまだ十分に広まっていないのが現状です。

■ ヤングケアラーが受ける影響

ヤングケアラーは家族に代わって家事や幼いきょうだいの世話、看病などにあたるため、勉強する時間がとれず学業に影響が出てしまう、自分の睡眠時間や趣味の時間を削らざるをえないといったことがあります。また、友人との時間がとれず、うまくコミュニケーションが取れずに「自分は周りとは違う」と悩み

や孤独を抱えるヤングケアラーもいます。幼い頃から長期にわたる家族のケアによって人間関係や進路、就職活動に深刻な影響を及ぼすケースも明らかになっています。



■ ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育・地域の連携

ヤングケアラーは家庭の問題が子どもの負担に直結しているケースが多く、家庭の問題が複雑であればあるほど多機関・多職種の連携が求められます。子どもが一人で悩みを抱えてしまうことのないように、支援が行き届く仕組みづくりが必要とされています。そこで、小中学校に配置されているスクールソーシャルワーカー※の強みを活かして支援が必要な子どもを把握し関係機関につなげることや、福祉・

介護・医療・教育の専門機関はもちろん、地域の主任児童委員などを巻き込んでケース会議や勉強会を開催するなど、より多くの関係機関とつながり、見守りの目を増やすことも必要とされています。

生きる権利

住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなどして、命が守られる



育つ権利

勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できる



守られる権利

紛争に巻きこまれず、難民になったら保護され、暴力や搾取、有害な労働などから守られる



参加する権利

自由に意見を表したり、団体を作ったりできる



※公益財団法人日本ユニセフ協会HPより引用

子どもの権利条約では、「子どもにとって一番いいことは何かということを考えなければならない」とされています。



※課題を抱える子どもの家庭訪問をして、子どもの家庭と関係機関をつないだり、学校に対する支援体制づくりや関係機関等との連携の仲介をしたりするなど、福祉的なアプローチによって子どもたちの生活の質を高めるためのサポートを行う専門職。



困っている子どもを『見逃さない』 必要な支援が必要なおところに きちんとつながるために

昨年度から福島県ヤングケアラー専門家会議委員の一員として、社会福祉士の視点からも福島県のヤングケアラー問題に携わっている郡山女子大学の島野さんに福島県におけるヤングケアラーの取り組みなどについてお話を伺いました。

福島県では昨年度、ヤングケアラーの実態把握やヤングケアラー本人の自覚や周囲の大人の気づきの促進などを目的に、ヤングケアラーカードの配布(県内全小学生から高校生を対象)や支援者向け研修を開催するなどの取り組みを開始。9月には初めてヤングケアラー専門家会議を開き、支援に向けての一步を踏み出しました。「今年度はリーフレットの配布など、子どものSOSの見える化を図るとともに、教育、障害福祉、介護、医療従事者、市町

子どもと、
その子どもがいる家庭の
支援をしていくという
視点をもつことが
大切



郡山女子大学
准教授
島野 光正さん

ほとんどないため、アウトリーチ※1
していくことが重要だと言います。

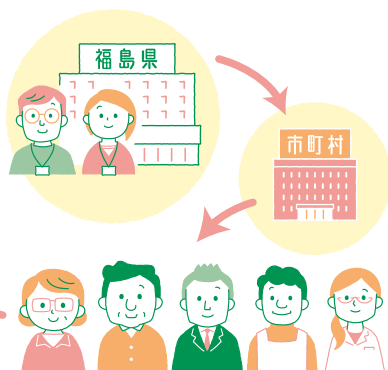
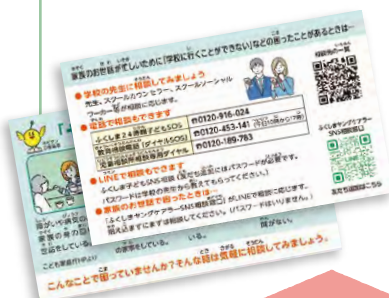
村、民生委員児童委員など関係者に向けた支援マニュアルの作成や圏域ごとの研修会開催なども行っています。県のヤングケアラー支援を担うヤングケアラーコーディネーターも1名から今年度は2名体制として、市町村での相談窓口体制整備にあたっています」と島野さんは話します。

ヤングケアラーの問題をはじめ、生活にかかわる専門職の支援関係者は、常にアンテナを高くして困っている人を『見逃さない』意識を持つことが大切だと島野さん。また、待っていても当事者が相談に訪れることは

「ヤングケアラーの支援は、その子どもや家族を『助けてあげる』のではなく、ケアラー自身やその家族が周りの人や社会資源の力を借りながら『生きていく力があるという』ことを見出すプロセスです。今まさに、誰一人見逃さない、誰一人取り残さない、ソーシャル・インクルージョン※2が求められている時だと思っています。だからこそ関係者は、連携のためのノウハウをいかに共有できるか、それぞれが専門性を持ち寄ってこんなことができる、こんなことをしたら良いんじゃないかということを専門職の枠組みを超えて考えていく必要があると思っています」と島野さん。

ヤングケアラーは家庭内のデリケートな問題に加えて潜在化しやすいことから、必要な支援が必要なおところにきちんとつながっていく仕組みづくりが求められています。

◀ヤングケアラーカード



多職種が連携することで、
どの機関に相談がいても
適切な支援につながる
体制づくりが重要

ケアマネジャー
保健師・介護士
スクールソーシャルワーカー
民生委員・児童委員
など



ヤングケアラーがいる世帯

※1 行政や支援機関等が積極的に働きかけ、支援を必要とする人に情報・サービスを届けること。

※2 全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合うという理念のこと。



インタビュー

事例から考える支援方策

子どもや当事者が発信できる環境があることが大事

スクールソーシャルワーカーとして県北地区を中心に活躍した経験を経て、現在は行政の立場から子育て世帯の支援にあたっている富良謝さん。これまで子どもや子育て世帯のさまざまな支援にあたる中で、ヤングケアラーは特に支援の難しさを感じてきたと言います。なぜなら、家族のケアが日常化し子ども本人の困り感がない場合が多く、親も第三者からの支援介入に抵抗を感じるケースが多いからです。そのため支援者は、子どもや家庭との信頼関係を構築しながら徐々に支援につなぐ雰囲気をつくるなど高いスキルが求められると言います。

ヤングケアラーの事例に携わる中で富良謝さんは、必ずしもヤングケアラーが悪ではないことや「不登校」「親の病気」などの様々な問題が絡むこともあり、簡単に解決に結びつかない難しさを感じてきました。「確実な支援につなぐために何より重要なことは、子どもや当事者が発信できる環境があるということだと思います。それを受けた人たちが、自分一人では抱え込まずに関係機関に相談することによって支援につながっていきま

家庭の問題、抱えている悩みや不安など、何でもご相談ください

伊達市教育委員会
こども部ニューボラ推進課
こども家庭相談係
ふらしまつみ
富良謝 睦さん



※ニューボラとは、フィンランド語で「アドバイスの場」を意味し、子育てをサポートする仕組みのこと。

事例①

外国籍の母親をもつ 高校生のケース

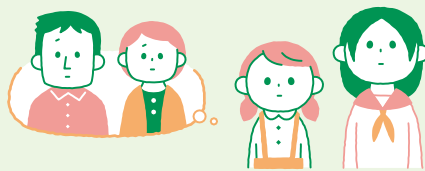
外国籍の母親をもつ男子高校生。小学生の時に両親が離婚し、日本語を話せない母親に代わって行政の書類や必要な手続きなどを行い、通訳も担っていた。本人は日頃の負担から精神不安定となり医療機関を受診した際、自ら家庭の事情を相談したことから行政へつながり、支援を受けられるように。現在は落ち着きを取り戻して生活している。



事例②

両親が身体不自由な 小中学生のケース

両親と小中学生姉妹の4人家族。両親は病気や事故により、どちらも身体不自由。生活保護を受けるが、家計は逼迫^{ひっぴく}している。姉妹は家のことは自分たちがやらなければならないという使命感がある。しかし、不登校や姉が度々家出をするなどの行動が見られ、学校から支援につながり、児童福祉、ケアマネジャーや地域包括支援センターなど多機関が連携して支援を行うようになり、改善が見られてきた。





『自分らしくいられそう』と思ったことが働く決め手だった」という菅野恵さん（写真右）。自分たちで栽培・収穫した野菜や果物などを仕込み、カフェのメニューとして提供したりドライフルーツに加工したりと、楽しみながら作業を行っています。

取材協力

FLAT 福島

福島市

TEL 024-572-3930

E-mail flatfukushima@ribboncoffee.com

HP <https://www.ribboncoffee.com/>



得意を生かして自分らしく
環境に、人に、やさしい
まちのカフェで働く

FLAT 福島

RIBBON COFFEEを中心とした就労継続支援B型事業所

誰もが通いやすい
ソーシャルカフェをめざして

福島市の中心市街地パセオ470沿いにある、おしゃれなカフェ「RIBBON COFFEE」。平日のランチタイムともなると、常連客で賑わいます。2020年9月にオープンしたこのカフェは、障害者就労継続支援B型事業所「FLAT 福島」が運営しています。管理者の加藤亜里香さんは、「FLAT 福島は、『みんなにちょうどいい』、社会にとってちょうどいい』をモットーにしています。好きなことや得意なことを生かしてのびのびと活躍できる場所を提供して、スタッフも利用者も共に成長できる就労支援事業所をめざしています」と話します。

カフェは、エシカル（倫理的な）、ボタニカル（植物由来の）、ローカル（地元の）をコンセプトにしたソーシャルカフェとして、時代にマッチしたこだわりを打ち出しています。環境に配慮した紙ベースの食器を使用し、スムージー、ドライフルーツなど、素材本来の持ち味を生かしたメニューを提供しています。

「りんごやいちごの仕込みが好きです。ドライフルーツ用に、りんご

楽しいと実感できる場所で見つかる仕事のやりがい

「店内の雰囲気や商品パッケージのデザインにもこだわっています。一見『福祉事業所っぽくない』のが、利用者さんの通いやすさにつながっているようです」

業では、自分たちの畑だけでなく地元農家も手伝っています。カフェで出た生ゴミは畑のコンポストに入れ、肥料として利用することで食材料サイクルの推進にも努めています。「FLAT 福島」と称した在宅PC作業では、データ入力の仕事のほかに、カフェのウェブサイト作成も行っています。また、店内に流れるBGMは、ジャズ好きの利用者が自ら制作し、提案してくれたものです。

「店内の雰囲気や商品パッケージのデザインにもこだわっています。一見『福祉事業所っぽくない』のが、利用者さんの通いやすさにつながっているようです」



設立当初から関わる管理者の加藤亜里香さん。一人一人が自分らしく、その方に合った働き方を見つけることができるようにお手伝いしたいと話します。



赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮 111 (福島県総合社会福祉センター内)

電話 024-522-0822 FAX 024-528-1234

メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp

ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>

令和5年度共同募金運動が始まりました

— つなかりを絶やさない社会づくりのために —

本年度も10月1日から、赤い羽根共同募金運動が全国一斉に始まりました。昭和22年から始まった運動は、今年で**77回目**を迎えます。共同募金は、戦後復興期の戦災孤児や引揚者の支援から始まり、その後も時代ごとの福祉課題を捉え、民間による福祉活動の大きな原動力となってきました。

昨年度の運動では、新型コロナウイルスや度重なる災害の影響を受けるなど困難な状況下での募金運動となりましたが、福島県共同募金会には**3億9,311万0,015円**もの多くの貴重な浄財が寄せられ、県内の数多くの福祉活動を応援することができました。

パンデミック状況下では福祉活動や募金活動において様々な制限を受けましたが、福祉関係者はつながることを諦めず、試行錯誤を繰り返しながら、つながりのあり方、支援・課題解決の方法を模索してまいりました。今年度も引き続き、「**つながりを絶やさない社会づくり**」の実現に向けて、運動を展開してまいりたいと考えております。皆様におかれましても赤い羽根共同募金運動の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

スマホからも、
募金できます。



- 金融機関を通じた募金も可能です。
 - 共同募金へのご寄付は税制優遇が受けられます。
- ➡ 詳しくは 福島県共同募金会ホームページをご覧ください

シックなRIBBON COFFEEの店内



大豆由来のハム
など食材にこだわった
「エシカルサンド」



お持ち帰り用の各種
ドライフルーツも販売



の皮むきやいちごをカットすることがとても楽しい」と教えてくれたのは、カフェで働き始めて2年になる菅野恵さん。「週2日から働き始め、現在は週5日働いています。以前お客さんとしてお店に足を運んだ際に、今どきのおしゃれなカフェに居心地の良さを感じ、自分もこの店で働きたいと思いました。実際に働いてみてカフェと農業どちらの仕事も体験でき、農園で育てた野菜や果物を収穫後に仕込み、メニューとして提供することもあるのでやりがいがあります」と話します。

自分に合った仕事をする事で感じる達成感が、一般就労への確かなステップになっているRIBBON COFFEE。今後は福島県の食材を生かしたメニューや商品を提供したいとのこと。居心地の良いカフェに関わる人の輪が、ますます広がっていきそうです。

果物や野菜など、
季節ごとに収穫や
仕分けを行っています。



県社協からのお知らせ

「介護助手」募集のご案内

高齢者施設で清掃や配膳・下膳など介護の周辺業務を行う「介護助手」を募集しています。子育て中の方、第一線を退いたけれどもまだまだ元気に働ける方、介護助手から始めてみたい方など、ライフスタイルや体力に合わせて働いてみませんか？ 資格や経験は不要です。ぜひお気軽にお問い合わせください。



空いている時間、
手を貸してください。
介護助手募集
資格、経験がなくても大丈夫！

清掃 洗濯 配膳・下膳
シーツ交換 調理補助 送迎

10月下旬発行の新聞折込広告に
最新の介護助手求人掲載します！

介護助手とは？

介護助手とは、介護保険法に基づく施設・事業所において介護職員をサポートする職種を指し、身体介護などの専門的な業務以外の補助的な業務を行います。

介護助手を募集したい施設の皆様へ

本会では介護業務の機能分化を図り、介護人材の確保とサービスの質の向上、地域住民の社会参加等を目指す「介護職機能分化モデル事業」を実施し、施設・事業所における介護助手の導入や採用活動をサポートしています。

お問い合わせ先

福島県社会福祉協議会 人材研修課 福祉人材センター
電話 024-521-5662 URL https://f-fjc.com



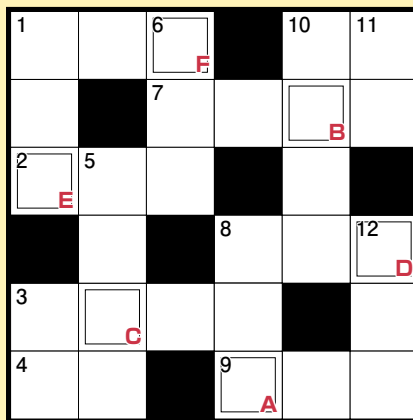
クロスワードにチャレンジ！

ヨコのカギ

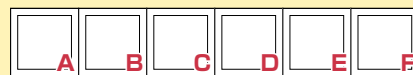
- ① 国民的アニメの主人公の名前にもなっている貝
- ② 恐れ知らずなこと。大胆○○
- ③ ⇄ステレオ
- ④ 体全体をコントロールしている司令塔
- ⑦ シンデレラ・ハロウィン・冬至に共通する野菜
- ⑧ 先祖のお墓がある寺院に所属する家
- ⑨ 今春から着けるか着けないかは個人の判断に
- ⑩ 上杉謙信から武田信玄へ送った調味料

タテのカギ

- ① 物価高の影響でコレのヒモを固く絞めている人も
- ③ 具体的に触れたり見られる なにかのこと
- ⑤ 日本国及び日本国民統合の象徴（憲法第1条）
- ⑥ 画家
- ⑧ 祈願成就の縁起物。「○○○さんが転んだ」
- ⑩ サンマを焼くのにピッタリな土製の小型こんろ
- ⑪ お父さん・お母さん
- ⑫ 「理科」は物理・生物・地学・○○を総合した教科



全部できたら二重ワクの文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。



正解者の中から
抽選で3名に
プレゼントが当たる



今日のプレゼント

RIBBON COFFEE
(福島市)

地産地消の季節の
ドライフルーツ3点セット

当選者の発表は商品の発送を
もって代えさせていただきます。

応募方法 ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

締切 令和5年11月15日(水)

宛先 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでの
ご応募は
こちら！



／ 多数のご応募ありがとうございました ／

9月号の
正解

「フクロウノワ」(フクロウの輪)

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

8月号に寄せられた読者のおたよりから

毎号楽しみにしています。表紙の子どもたちの写真に癒やされました。この子達の未来に幸あれと願うばかりです。
(41才 事務)

成年後見が必要な方が増えているのを実感しています。後見人も一人だと荷が重いので、法人後見が増えるといいなと思います。
(47才 福祉)

毎月、福祉に関わる内容をイラストやグラフを効率的に活用し、分かりやすく伝えていただき、楽しみにしています。
(61才 保育)

編集後記

昨年度から、はあとふる ふくしまの表紙は、福島県内保育所の子どもたちを追いかけています。子どもたちの表情は素直で素敵ですね。素直であるが故に、子どもたちは、困りごとを困りごとと感じないことが多々あります。「助けて」を言えるようにするために福祉関係者や大人ができることがまだまだありますよね。
あ だちひろかず
(人材研修課 安達弘和)